

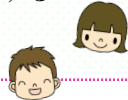
# 育ちと学びをつなぐために

～幼保・小の連携～

遊びや生活を中心とする幼児教育から、教科等の学習を中心とする小学校教育への移行は、子どもたちにとって戸惑いや不安(段差)があります。子ども一人一人が段差を乗り越えて成長し、小学校における学びを爽りの多いものとするためには、滑らかな移行が必要です。まずは、連携を通して、**相互の教育について知ること(相互理解)**が不可欠です。

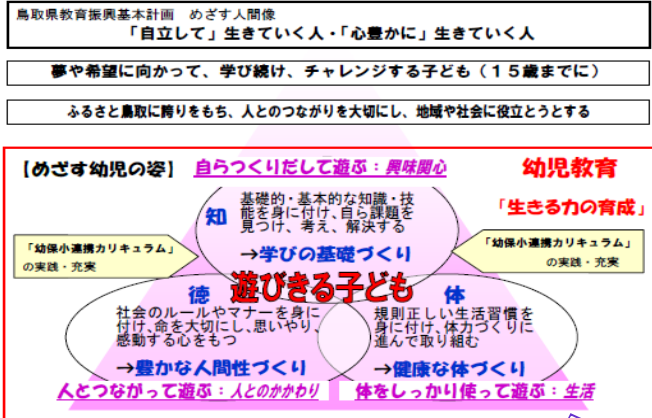
## <相互理解とは>

- ◆ 幼児・児童の実態を知る
- ◆ 互いの教育内容や指導方法、評価について知る
- ◆ 幼稚園・保育園と小学校の違いを理解する
- ◆ 発達段階を理解する
- ◆ 信頼関係を深める



## そのために、必要なこととして

交流活動、保育・授業参観後の合同研究会  
 教職員の保育・授業体験、合同研修会、連絡会  
 移行支援会議、体験入学のための話合い  
 接続期のカリキュラムの開発のための話合い 等



## 連続性・一貫性のある教育 ～学びの基礎力の育成～

国府東小学校 丸山亜津佐教諭 (H24年度 長期社会体験研修者) による  
 さつき保育園と国府東小学校の交流活動の公開と連携の実際

### 幼保小連携推進研修会 「あきとなかよし」～こくふのあきをたのしもう～

- 【わらい】
- ◇ 小学生…年長児とかかわりながら、秋の自然物を使って遊びを楽しむ。
  - ◇ 年長児…1年生と一緒に秋の自然物を使った遊びを楽しむことを通して、小学校への親しみをもつ。

### 交流活動を参観した感想

- ・ 自然と手をつなぎ、いろいろなコーナーを移動している姿から交流の積み重ねを感じた。
- ・ 1年生が、お兄さん・お姉さんらしく発言したり行動したりする姿が見られた。
- ・ 保育園の子どもたちがお客さんになっていなかった。
- ・ お互いの思いをすり合わせて交流することで、互恵性のある交流になる。

ここをつまむと、上手につまめるよ。



一緒に作ったおみこし、ワッショイ。ワッショイ。



★ 幼児期においても、知徳体の調和のとれた学びの基礎力の育成を行っています。

長期社会体験研修とは、社会の変化に対応した学校教育を創造するための広い視野や柔軟な発想、職務遂行能力等を養い、教員としての資質を高めることを目的とした長期間の研修です。

鳥取県教育委員会では、H19年度から小学校教員の幼稚園・保育園における研修を実施しています。

### 丸山教諭の話を聞いた感想

- ・ まず、園に行って生活を見たり、教職員同士で話をしたりする機会を作ってきたい。
- ・ 初めてスタートカリキュラムを目にした。育ちと学びがつながるものがあり、相互理解の大切さを感じた。

本年度も、東部地区で2名の小学校教員が、保育園で長期社会体験研修に取り組んでいます。

研修を通して感じておられることを尋ねました。

鳥取市立城北小学校から  
 鳥取市立城北保育園へ  
 大坪 幸恵 教諭



年長児にとって、園での生活や遊びは学びそのものであると実感しています。その学びや育ちが小学校入学で途切れることのないよう、実態を小学校の教職員に伝え、つながっていきたいです。

鳥取市立青谷小学校から  
 鳥取市立すくすく保育園へ  
 中澤 美佳 教諭



乳幼児期の保育と子どもの育ちを知るなかで、毎日の積み重ねの大切さを感じています。育ちつつあることを丁寧に見取り、子どもへの関わりを考え、実践しています。

目の前にいる子どもたちが、これまでどのように育ってきたのか、また、これからどのように育っていくのかを踏まえながら、子どもの発達の特性を理解し、それに基づいた育てたい子どもの姿を捉え、それぞれの保育・教育を充実させていくことが求められています。